

大木となりしみ寺の菩提樹を見上げて憩ふこの山門に

(R)

あさづき(アサツキ)とり・・・

雪解けが進み露の臺の花が咲く頃は、次々と植物の芽吹きが始まります。あさづきとりは、子供の頃の遊び兼仕事でした。私たちのとるあさづきはまだ陽の当たらない黄色い芽のものでした。「毎年この辺りに…。」と雪の下や林の中へバケツとスコップを持って出かけます。わずかな時期のことなので、採れたときには意気揚々と帰ってきます。

冷たい水で何度も洗い土を落としゴミを取り除くと手はかじかみ、白髭のような長い根を一本一本切り始末すると指はジンジンと真赤になっています。熱湯で湯がいたあさづきを酢醤油で食べるのが好きですが、母は、「ツブ(タニシ)と酢味噌和えにするのが昔からの料理だ。」と言います。い、今ではぶつ切りにしたタコと和えるのが一般的です。早春の山菜の味は、どれも体に良さそうです。

こんな楽しみ方はおかしいでしょうか。きれいに洗ったあさづきを一本つまんで、東の空にかざします。月の出の黄色から昇るにしたがって白っぽくなるお月様の色のようです。冬の間、雪雲に隠れていた月は時々美しい輝きをみせてくれるようになりました。読書会では、「朧気川に架かる望月橋で月を見たいね。」と話題になります。今年こそは春のお月見を実現したいものです。今年も田圃の仕事が始まります。

・・・

玄鳥至る(つばめきたる)

4月4日～4月8日頃

冬枯れた庭の枝にちらほらと、サンシュユの黄色い花が見えてきました。猩猩(シカガヨ)袴もピンクの花が咲こうとしています。春の花は、葉が出る前に咲くものが多いのでうれしくなります。山菜も出てきました。苦みのある山菜は冬の間ちぢこまった体の中に刺激を与え、春モードに変えるのだと聞きました。(き)



かつらの雄花〈雄木〉

鴻雁北へかえる(がんきたへかえる)

4月9日～4月13日頃

月遅れの雛祭も終わり後片付けに苦労する頃。厳しかった冬を忘れてしまうほど町中が華やき彩りに溢れています。

喜寿の記念にと女子校の同期生という団体の方々を案内しました。それぞれにお年を召した姿に人生を感じ、我々も年を重ねる事の重さを受け止めようと思わせるハレとケの祭でした。(木霊)



2015.4.9 資料館のかつらの芽吹き(花)

虹はじめて見る(にじはじめてあらわる)

4月14日～4月19日頃

町のあちらこちらの桜の名所が満開になりました。今年は花の時期が早く、桜花台の桜は少しさびしくなりましたが、中学生がグラウンドに花見に来ていました。私たちが中学の頃は、クラスの記念写真は、毎年桜の木の下でした。ちらちらと散る花びらの下で、赤いほっぺの中学生が写っていました。(ひ)

資料館のカツラの芽吹きが始まり、写真を撮りに行きました。カツラの花は？と、調べてみると、雄木と雌木があり、春一番に赤い雄花と雌花がそれぞれに咲き、雌花は葉とほぼ同時につけることがわかりました。赤い新芽だと思いついていたのは花でした。

ふたつ春呼ぶらしも

桂樹(かつらぎ)の秀枝(ほつえ)に來り鳴きそめし椋鳥(むくどり) 『白き山』齋藤茂吉著より